

注 ※印の演習担当教員を希望する場合は、事前に大学院入試グループへ相談してください。
演習担当教員は変更することがあります。
なお、変更が生じた場合は、本大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。
https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/
 演習担当教員は、出願時の希望を考慮のうえ、研究科が決定します。 (2024年4月現在)

2024年度 外国語教育学研究科演習担当教員（指導教員）一覧（博士課程前期課程）＜予定＞

研究対象言語	領域	教員名	教員コード	指導が可能な分野	
英語	外国語教育学領域	池田 真生子	60972	英語教育学(学習方略、自己調整学習、小学校英語、教員研修)	
		今井 裕之	72822	英語教育学(英語授業研究、スピーキング評価研究、英語教師教育研究)	
		新谷 奈津子	76406	第二言語習得、ライティング指導法、タスク中心教授法、文法指導、第二言語語用論、学習者の個人差、児童英語教育	
		竹内 理 ※	95702	英語教育学(学習方略、動機づけ、自己効力感、不安などの学習者要因、教員養成)、自律学習・自己調整学習、教育メディア研究(遠隔学習、映像利用、教材作製)、小学校英語、テスト研究	
		名部井 敏代	62952	英語教育学、第二言語習得(教室内インタラクション、フィードバックの効果、学習過程の学習者意識)	
		サイモン・ハンフリーズ	74044	外国語教育・応用言語学(教授法やカリキュラム・イノベーション、第二言語使用に関わる情意要因)	
		水本 篤	69617	コーパス研究、語彙研究、言語テスト研究、学習方略、研究方法論	
		大和 知史	78394	英語教育学(英語発音指導/プロソディ)	
	異文化コミュニケーション学領域	アンドリュー・パーク	71613	言語と文化、日英対照言語学(語用論、社会言語学、談話分析)	
		サイモン・ハンフリーズ	74044	異文化コミュニケーション(海外留学中の外国語使用に関わる情意要因)	
		榎本 智子	75392	コミュニケーション学、異文化間コミュニケーション	
		守崎 誠一	71887	異文化コミュニケーション学(コミュニケーション行動に与える文化の影響、異文化不適応・適応、文化的価値観、異文化間コミュニケーション能力)	
	通訳翻訳学領域 注1)	阪本 章子	77969	翻訳テクノロジーの社会的考察、翻訳プロセス分析、翻訳理論にもとづく翻訳テキスト分析(字幕翻訳を含む)、翻訳者教育	
		高橋 絹子 ※	77318	通訳翻訳学(通訳研究、通訳翻訳と社会、通訳教育、通訳と音声)	
日本語	外国語教育学領域	阿南 順子	75959	日本文化論、演劇・パフォーマンス学、ジェンダー・セクシュアリティ論	
		アンドリュー・パーク	71613	日本語の語用論、社会言語学、談話分析	
		嶋津 百代	69771	日本語教育学、ディスコース分析(ナラティブ)	
		高梨 信乃 ※	75391	日本語教育学、日本語学(現代日本語文法)	
	異文化コミュニケーション学領域	阿南 順子	75959	日本文化論、演劇・パフォーマンス学、ジェンダー・セクシュアリティ論	
		アンドリュー・パーク	71613	言語と文化、日英対照言語学(語用論、社会言語学、談話分析)	
		榎本 智子	75392	コミュニケーション学、異文化間コミュニケーション	
		守崎 誠一	71887	異文化コミュニケーション学(コミュニケーション行動に与える文化の影響、異文化不適応・適応、文化的価値観、異文化間コミュニケーション能力)	
	通訳翻訳学領域 注1)	阪本 章子	77969	翻訳テクノロジーの社会的考察、翻訳プロセス分析、翻訳理論にもとづく翻訳テキスト分析(字幕翻訳を含む)、翻訳者教育	
		高橋 絹子 ※	77318	通訳翻訳学(通訳研究、通訳翻訳と社会、通訳教育、通訳と音声)	
	中国語	外国語教育学領域	玄 幸子 ※	88739	中国語学、中国語教育学、中国語の通時的研究
			小嶋 美由紀	71614	中国語学(現代中国語文法)
			山崎 直樹 ※	66638	中国語教育のためのインストラクショナル・デザイン、日本語話者の中国語学習者による中間言語の形成、中国語教育のための語用論、中国語教育のための談話言語学
	朝鮮語	外国語教育学領域	高 明均 ※	65667	朝鮮語学、語彙意味論
松岡 雄太			76407	朝鮮語学(記述言語学・社会言語学)、朝鮮語教育学(対照言語学)	
ドイツ語	外国語教育学領域	高橋 秀彰	63299	ドイツ語学、ドイツ語教育学	
	異文化コミュニケーション学領域	高橋 秀彰	63299	ドイツ語圏の社会言語学(言語政策、移民の言語、態度、アイデンティティなど)	

注1)「通訳翻訳学領域」で主に扱う言語のペアは「英↔日」です。研究対象言語は、口頭試問において決定します。これについて質問がある場合は、事前に指導を希望する教員に問い合わせてください。

注2) ※印の演習担当教員を希望する場合は、必ず、事前に大学院入試グループへ連絡してください。